

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	12-101	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Dutch adolescent private drinking places: prevalence, alcohol consumption, and other risk behaviors. オランダ人青年における飲酒：罹患率、アルコール消費量、その他の行動		
執筆者		
van Hoof JJ, Mulder J, Korte J, Postel MG, Pieterse ME.		
掲載誌		
Alcohol. 2012 Nov;46(7):687-93		
キーワード		
オランダ、青年、バラック、アルコール		
要 旨		
目的： 本研究の目的はオランダで人気の健康現象である「バラック」という仲間内で集うコミュニティについて、その普及率と特性、そしてアルコール消費とバラック訪問者の行動について調査することである。		
方法： 3つの研究が行われた。1つ目の研究では51のバラックに対してフィールド研究を行ない、グループインタビューが行なわれた。2つ目の研究では442のバラックのウェブサイトに対してコンテンツを分析するインターネット調査が行なわれた。3つ目の研究では1,457名の15歳から17歳の青年を対象にした質問票調査を行い、バラック訪問者と非訪問者間の行動の違いを調査するためのものであった。		
結果： バラックの特性と文化において変化に富んでいることが確認された。バラック構成員とその訪問者はウェブサイトで公にされている多様な活動を組織している。バラックは多様な法的課題、例えば未成年者へのアルコールの販売や親の目が行き届かない点、不法な薬物濫用と関連がある。バラック訪問者はより頻回にそして多量(一晩にビール15杯)にアルコールを飲み、非訪問者と比較して頻回に酒に酔うことが分かった。		
結論： 立法者はバラックで起こっている現象(酒の暴飲や違法な薬物濫用、治安)を理解し、政治・法律の及びやすい領域で力を発揮して干渉し、堅実で責任のある現状に沿った法令を作り出す必要がある。		